ゲームマシン
THE GAME MACHINE

発行所
ゲームマシン社
大阪市北区木幡町45アドビル内
〒530　電話 06（313）0451 内41
定価1部　200円
年間購読料（送料共）7,200円
本紙ご購読ご希望の方は、上記あて現金書留にてご送金下さい。

辻勇理事長の旗じるしのもと「大阪メダルゲーム協同組合」

10・3設立総会に会員ら100名が参集

風営法対象機種認可が目的

十月三日大阪青少年会館において、「大阪メダルゲーム協同組合」の設立総会が開催された。会員・入会希望者ら百名近く参集し、熱心に議事進行を見守った。（なお、本文中のデータは同事務局によるものである）

全面禁止などの不安を背景に大挙入会参加

メダルゲームマシンの風営法対象機種認可を最大目標におく「大阪メダルゲーム協同組合」の設立総会が、十月三日、大阪森之宮の青少年会館二階会議場で、午後二時より開催された。

同組合は大阪府下のメダルゲーム場のホール業者が集まって結成されたものだが、今回の設立背景には、府下だけで現在三五〇ホールを越すという異常増加ぶりのなかで、一部換金行為に走る違法業者も出現、大阪府警の保安課から、警告文が配布されるなど、関係業者間で、条例改正による全面禁止も予想されるという、業界の今後の見通しに関し、強い不安感が底流にあったわけだ。

このような憂慮される状況だけに、当日、同会場には会員および入会希望者が一〇〇名近く集まった。

辻理事長をはじめ、副理事長、理事など決定

総会の議事運営役には井上昭男氏（㈱マル三商会）があたり、まず、来賓の香味幸雄（大阪府警保安課長補佐）、岩見豊明（元大阪府議会副議長）、峯　久（大阪自動娯楽機組合長）の三氏、また左記の役員各氏の紹介が行なわれた。

理事長＝辻　勇（㈱角栄社長）、副理事長＝河合久男（㈱マル三商会専務）山木政男（㈱日本バリー社長）、角野博光（マックス社長）、高桑修（㈱パシフィックエンター社長）、中村欽也（東宝商事㈱社長）、理事＝木下勝治（日本ユーザー㈱社長）、平井登志夫（㈱ジャパンレジャーサービス社長）、山田勇（ゲームコーナー経営）坂本音市（ゲームコーナー経営）、事務局長＝三好敏夫（日本出版企画制作㈱社長）。

ひきつづき来賓各氏の挨拶がり、議長に三好敏夫氏が指命された。

同議長は同組合の設立発起人会経過報告をした後、組合規約の説明。組合規約および法定理事の承認を求め、拍手多数で無事承認された。

規約、役員の承認、その他の事項、全面の拍手多数で確認

次に辻勇理事長の挨拶、組合銘鈑、その他事項の承認があった後、質疑応答に入った。質疑応答では、組合運営についてなど活発な論議がなされた。

その後、出席者のなかには、当日まで正式入会の手続きをしていない業者も多いことから、その場で入会申込の説明と受付けがなされ、既入会者を含め、四十八業者の入会があった。

総会は、最後に河合久雄副理事長の力強い閉会宣言の後、午後五時にとどこおりなく閉会した。

（来賓、理事長のあいさつは2めんで詳報）

> 「大阪メダルゲーム協同組合」の
> **会費・入会金**
> ◎入会金　十万円
> ◎会費　ひとつのゲーム場につき月額一万円、年額十二万円
> 以上の金額とともに入会申込書を、同組合事務局に出せば、審査ののち入会が認められることになっている。

あいさつする香味氏（左はし）と役員たち
右から順に　井上、高桑、三好、辻、山木、角野の各氏

活発な質疑応答　記録

問　少教台数で営業している業者に違反事故が多いようだが、これら業者にも入会を勧誘し、組合で善導してもらいたい。

答　原則的に10台以下のホールは入会を認めない方針だが、理事会で厳重審査の上、一部入会も認めていきたい。その場合、入会許可条件として、ホールの所有者が明確であり、係争中の業者でないことが最低の条件だ。

問　本日入会する会員やこれから入会する会員も多いことだから、会員の入会が一段落したところで、総会を開催し、全会員の正式承認を受けた執行体制を選出してほしい。

答　現在の理事会は、組合設立の発起人会のメンバーが中心になっているが、これはあくまでも暫定的過渡的なもので、来年早々には総会を開催する予定だ。

問　地域別にブロック分けし、責任者を選出してもらいたい。

答　現在はまず本店づくりをやっている段階であり、近い将来、地域別の支店づくりも当然やっていきたい。大阪府下だけに止まらず、近畿全体を包含した組織にまでもっていきたい意向だ。

問　喫茶店などで五台ぐらいで営業している業者は、入会を認められないのか。

答　府警では、喫茶店などでゲームコーナーを併設する場合、入口が一つでは認可しないと聞いている。必ず二つ以上の入口が必要なのだ。だから当然、組合の入会にも入口を二つ以上設けた業者しか入会できないことになる。

＊　＊　＊

スロットマシンの話 ③

一八九五年フェイによって発明されたスロットマシンは、改良され普及していく。

スロットマシンの話というのは、たいがい横文字の文献にその根拠を見いださないわけにはいかない。つまり、米国で発明され、改善され、そして発展してきたマシンの話だからである。

その結果このシリーズでも多少のミスは避けがたい。本紙創刊号の「スロットマシンの話(1)」から、その例を引こう。

まず「片手の山賊」。これで間違いはないが、感覚としては「片腕のギャング」といったほうが適当だろう。これはスロットマシンに対するアダナで、片腕というのはスロットマシンのハンドルのこと。〈片腕〉を引っぱることは、マシンが〈片腕〉でブン欧る、という形になる。

つぎに「自由の鈴」。これはむしろ、明らかに「自由の鐘」のほうが正しい。アメリカ合衆国が独立宣言をしたとき、大々的に打ち鳴りわたったのが、有名なフィラデルフィアの自由の鐘である。リバティ・ベルは米国史上欠かせないもの。しかも、当時スロットマシンには、コインが出るたびにベルがチリンチリンと鳴るようなところかたので、そのようなところからスロットマシンに「自由の鐘」という名前も出てきたわけである。

スロットの基本

さてスロットマシンのそもそもの意味はこうである。つまり、三つ以上の幅の小さなシリンダー状のドラム——これをリールと呼び、リールにはいろんなシンボルがつけられている——が、まず一つの水平軸に垂直に並べられている。このリールを収めてあるキャビネットには、ハンドルが右手についていて、これを引くとリールが回りはじめる。リールの回転はやがて力を失ない止るが、止ったリールのシンボルは、リール一つにつき三つしか見えないようつくられている。ふつう、上中下のうち真中のラインで、シンボルの組合せが行なわれるが、これをウィンラインと呼ぶ。ウィンライン上で、配当の出るシンボルの組合せになれば、下の受け皿に向って中からコインが出てくる——。

スロットマシン誕生の歴史
フェイの発明からミルズの手へ

謙虚なフェイ商法

コインを入れてコインを出す、というこの画期的なマシンは、お金を入れる（スロットル）というイメージにぴったりであった。このスロットマシンは、一八九五年、米国カルフォルニア州サンフランシスコに住む、チャールズ・フェイ(CHARLES FAY)が発明した、というのが定説である。

チャールズ・フェイはェくバーに行くのを無上の楽しみにしていて、いつもバーテンとダイスをして遊んでいたが、バーテンは忙しくてなかなかお相手をつとめるヒマがなかった。

「ダイスを振る、というのを機械化したらどうなのだろうか？」かれはふと考えた。

さてそれからというもの、もともと熱中する性格のフェイは、来る日も来る日も考えぬいたすえ、ついにスロットマシンを考え出したのである。

フェイのスロットマシンは、今では古典的とも言える三リール方式で、コインやら景品やらがスロットマシンから出るというもの。「自由の鐘」という名のスロットマシンも、かれがつくったものである。

リールにつけられてあるシンボルも、当初はトランプのダイヤ、クラブ、ハート、スペードなどから出発し、動物や星や馬などがだんだんと登場してきた。もっとも現在では、ジャックポットのサイであるセブン、バーなどと共に、チェリー（サクランボ）、ベル（鐘）、西洋ナシ、ミカンなどが一般に用いられているわけであるが——。

かくしてフェイはスロットマシンを発明し、自分で工場ももって、製造するかたわら、リース業にも手を伸ばしていった。手頃な大きさのマシンであること、手頃なコインで大きな楽しみを与えてくれること——それは実に傑作といえるわけで、スロットマシンは爆発的な人気を得て、たちまちサンフランシスコ中に広まったのである。かれが一挙に財産家になったのは言うまでもない。

しかしフェイは、この大発明にもかかわらず、カルフォルニア州以外にも手を伸ばそうとはしなかった。まさに「利益は公平に分配される」の原則にのっとって、かれはそれ以上多くの利益を求めようとしなかったのである。

大きなミルズの貢献

スロットマシンの発展にとって、イリノイ州シカゴに住むハーバート・ミルズ(HERBERT S.MILLS)の名前は欠かすことができない。かれはフェイにつづいて一九〇七年にスロットマシンの改良型を生み出したほか、全米にスロットマシンを広がらせたのだ。

かれはフェイのスロットから、①三リール方式、②ハンドル操作、③自動式ペイアウトなどの原則を採用する一方、ふたつの重要な改良を加えた。

さらに改良を加える

そのひとつは、シンボルの数を増したことである。フェイの場合、ひとつのリールにシンボルはたった十しかなかったが、この場合（三リールで）ウィンライン上の組合せは千組（10×10×10）どまりであった。ミルズはリール上のシンボル数を二十にもっていき、八千（20×20×20）という組合せ数に高めたのである。これは現在でも採用されている方式である。

ウィンライン上の組合せの数が増すということは、そのまま、勝つ（ウィン）組合せの出かたが豊富になる、ということであり、楽しみを一挙に増大させ、この方式で定着させた。

ふたつめは、プレイヤーがリールを見る〝窓〟を大きくしたことである。フェイのマシンでは、水平に並ぶ三つのリールしか、プレイヤーには見えなかった。もっともそれでもはっきりとシンボルは見えていたわけであるが、ミルズは上下三つものシンボルが見えるよう、〝窓〟を大きくしたのである。これによって、三リールの場合、つねに九つのシンボルがはっきり見えるようになった。

これはプレイヤーに、勝ち（ウィン）の組合せをよくわからせるだけではなく、ウィンライン以外にも勝ちの組合せが出てきたりする楽しみを、プレイヤーに与えることになり、この方式も定着した。

ミルズは一九〇七年に大きな改良をスロットマシンに加えたが、それ以前からも、コインをつかって遊ぶ機械を、せっせと作っては広がらせていた。一八八九年ごろのかれは、のぞきからくりや占いをするコインマシンを開発していたのである。

銀行を味方に普及

ついにかれはスロットマシンを手がけるようになって、まず銀行家を自分の味方へと引き込んだ。ミルズは、ただ銀行家はカネの扱いでは最も確かである、というだせの見地から銀行協会に話をもちかけたのである。

「よく人の集まる建物にこれを置いて下さい。」

話がまとまると、かれはそれだけを指示して、全米の銀行にスロットマシンを送りつけた。委託販売でやったわけである。

一方、かれは売ってしまってないマシンについては、儲けの一部分をかれに戻すよう、はっきり話をつけていた。やがて銀行業者は、これを買いとり、スロットはかれらの財産となった。

ともかくもミルズの商法はなった。シカゴを中心として、スロットマシンは全米へと普及していったのである。★

大阪メダルマシン協組でのあいさつ

甘い判断は禁物
窓口一本化に期待
断固たる行政処置を検討中
大阪府警　香味幸雄氏

大阪府警では府下のメダルゲーム場の実態調査をすでに終え、一部業者が現金郵送や他場所でのメダル買上げ等々の換金行為を行なっている現状は知悉しており、府警としては、いつでも次の行政措置を発動できる段階にきている。

現在、違法業者が一部しか検挙されていないことに対し、業者が甘い考えで、現状の営業が継続できうると考えるならば、それは大きな間違いであり、府警としてはその場合、断固たる行政措置をとる意向である。

府警では昨年来、関係業者の窓口一本化と府警との緊密な連絡を要請していたが、今回「大阪メダルゲーム協同組合」が結成されたことは、まことに時機をえたものであり、今後の組合の成長に期待したい。

注意事項を厳守

なお、府警としては、メダルゲーム場経営者に次のことを厳守して、営業していただきたい。

① 預り書の発行をやめる。
② 営業終了時は午後12時を厳守する。
③ 照明を明るくする。
④ 18才未満は入場を禁じる。
⑤ カジノ等のトバクを連想させる店名はやめる。
⑥ メダル料金は、健全娯楽としての適当な遊戯料金とする。

誇り持つ業界へ
岩見豊明 最高顧問

現在の当業界の社会的地位は低く、業者自身が自分の仕事に自信と誇りを持てないのが、残念ながら現状のようである。

一日も早くレジャー時代の重要な分野をになう業界に、自信と誇りを持てる業界にしなければならないが、そのためには現在のように各自がバラバラの状態で、一部違法業者を許容している現状をあらためなければならない。

私は数年前、タバコをつりあげるクレーン機が店頭追放になった時、大阪府警の防犯課にクレーン機を持ち込み、技術の介入を認めさせ、指定遊戯機にしてもらった経験があるが、今回の、メダルゲーム機をパチンコと同様に風営法対象機種としよう、という組合の運動を成功させるためには、ここ数ヵ月がヤマ場だ。

まず関係業者が各自の立場・利害を越えて、大同団結し、結束して大きな力を持つ組合とならなければ不可能だ。

この際、自分だけの利己主義や日和見主義では、全面禁止という業界にとって致命的な事態も考えられる、一連托生の状況にあることを充分に認識してもらいたい。そして大阪府警との連絡を緊密にし、その指示・伝達を厳守して、一日も早く制度的に完成され力を持つ組合に成長してもらいたい。

事態は急迫しており、

暫定的執行部で出発
辻　勇 理事長

今回設立された組合は、現在のメダルゲームマシンが、パチンコと同様に風営法対象機種の認可を受けることを主要な目的に結成されたものです。現在の私をはじめとする理事会執行部は、事態が急迫した中で、急きょ創られた暫定的な性格を持つもので、入会員が増え、確定した時期に新しい執行部を再度、会員の総意により選出していただく所存です。その時期はたぶん、来年一月早々を考えております。先程からのお話にありましたように、ことは我々の営業権、生活権に関する重大な問題です。我々には、一人でも大くの業者がこの組合に参加し、大きなグループとなって活動を押し進めていく以外に道は残されていないと考えます。

みなさま方が会員募集にご協力いただくことをお願いします。

熱心に聞入る会員たち（大阪メダルマシン協組）

互いに協力
大阪自動娯楽機組合　峰　久 理事長

世間では「生む苦しみより育てる苦しみ」とか申します。今回、新しく設立された組合も今後、多くの苦しみに出合うことでしょうが、この組合と大阪自動娯楽機組合とは、兄弟のようなものであり、今後、両組合が一致協力し、共に手をにぎり助け合って進んでいきたいと考えます。

なかよくやりましょう。

'74ゲームマシンフェスティバル
アトラクション内容発表

ゲームマシンフェスティバルは、十月二十日、二十一日にわたって大阪貿易センターで開かれるが、当日のアトラクションの出演者について、実行委員会（橋本敬親委員長）より次のとおり発表があった。

バンド演奏　高見延彦とザ・クリエーション
歌手　細川ひろみ
マジシャン　ケン小森とその仲間
スクールメイツ

バニーガールによるドリンクサービスも、当初の計画どおり行なわれる。

なお、前号において、出展参加する会社名を掲載しておりましたが、一部誤っておりました。次のとおり訂正して、お詫び申し上げます。

出展参加社（五十音順）
アスター商事㈱
大阪パシフィックベンディング㈱
㈱カーマンモデル
㈱カワクス
㈱関西企業
㈱関西レジャーサービス
㈱サービスゲームス
㈱三共商事
㈱ジャトレ
ジャパン・オーバーシーズ・ビジネス㈱
ダックス貿易㈱
日本ジュークボックス商事㈱
任天堂㈱
㈱ビクトリー
㈱フジ・エンタープライゼス（㈱ツムラと合同出展参加）
マックス
㈲リバーストン商会
レジャーエンタープライゼス㈱

ゲームコーナー拝見

ああ今日も〈胎内回帰〉の願望とマシンとの対話の夢をのせてゲームマシンは回転する

葉狩　哲

何といってもあの暗さがいい。奇妙な安らぎを覚えるというか、何より生理的に受け入れ易い。もともと、メダルゲームに熱中する人間の共通点は、その幼児性にあるのだろうけど、もしかするとゲームコーナーの暗さは、〈胎内回帰〉の願望に通じているのではないか。中へ入ってみるときわめて居心地が良い。

フリッパーに熱中

正直に告白すれば、ぼくは昨今のようにゲームコーナーが流行る前まで、フリッパーの熱心なファンの一人だった。ボーリング場の片隅に、あるいはちょっとした街中の空間に並べてある、例のパチンコ台を寝かせたような加点式ゲーム機に、中毒した体験がある。第一に、運を含めて自分の技術や力が即数字となって表われるのがいい。第二に、弾いたボールが自在に飛び跳ねるのが小気味いいのだろう。己の心情をボールに託し、フリッパーの盤面を縦横に弾く。第三に安価である。投資分だけ確実に堪能したという実感は、この時代においては貴重な感覚だ。金銭の価値感そのものが、インフレのために崩壊しかかっている現在、自分の意志でもって投資分を精神的に回収できるフリッパーは、数少ない人間的な営みの一つだろう。

本来の金の使い方はそうあるべきで、時代の尖鋭である若者は感覚的に人間性回復の術を心得ているのだ。

似非ラスベガス!!

ぼくはゲームコーナーの、いかにもギャンブリックな装いの赤や黒のチョッキを身につけた係員が苦手だ。ギャンブルが嫌いだ、というのではない。ぼくはゲームを楽しみに来ているのであり、強いて云えばゲームマシンとの対話を求めて来ているのである。（こんなことを思ってゲームをすれば白けること受けあいだけど）とにかく似非ラスベガスはごめんだ。

メダルを入れる。スロットマシンの作動する合図が手に伝わる。ぐいっとハンドルを引く。硬い眩い光線にサイケデリックな図柄が一本の夢のように回転して浮び上る。マシンの回転が停まる。直感を信じた結果が出る。図柄が一定の法則のもとに並ぶ。澄んだ異様に高い金属音を残してマシンはメダルを吐き出す。もとよりメダルは換金できない。たったこれだけのことに〈対話〉を感じるぼくは、友人に云わせればよくよく単純な男であり、おめでたい人間らしい。

しかしゲームコーナーへ行ってみると、この種の人間が多いことに気づき、思わず安堵させられる。ぼくのようなガキだけではない。恰幅のいい大人がペニーフォールに夢中になっていたり、ルーレットに興じていたり、その表情だけをいうならば、何らぼくと相違ない。

一体ぼくを含めてこれらの人達は何を求めてゲームコーナーにやって来るのだろう。

ルールはあるもの

ぼくはパチンコが好きである。好きどころか十八の齢にパチンカーのプロになろうとさえ思ったことがある。「ちょっと待合せまで時間があるからパチンコでも」などという気持でパチンコはやるべきではない。必ず報いをうける。ゲームマシンも「ちょっと時間があるから」なんて遊び方はいけないと思うのだ。遊び方にルールはないけれど、そういう楽しみ方をすべきものではない。「ちょっと時間があるから」なんて、ゲームマシンに対する侮辱である。

選択の余地がある

パチンコは勝つために己を無心にしてひたすら玉を打ち続ける作業だけど、それは決して自己を解放させるものではない。あくまで自分との戦いだ。ところがスロットマシンには機械を操っている実感があるし、ペニーフォールにしたってルーレットにしたって幾通りもの選択の余地が残されている。自分の勘に賭けることだって己を解放する一つの手段だ。だから、メダルゲームに興じる人達の大半はマシンと対話をするために足を運んでいる、と判断してもいい。いや、無意識の裡に自分とマシンとの対話を求めているのだ。

今の世の中、身動きのとれないくらい組織化され、仕事といえば本当に機械的にやらねばならない。コンピューターのデーターに従い仕事をしなければならない人もいるるだろう。少々強引な言い方をして、社会あるいは企業そのものを一個の機械に例えれば、機械に押えつけられ、機械の忠実な僕になっているのはぼく達一人一人なのだろう。それにいつまでも耐えておれるわけがない。結局、機械に使われるより使った方が自分の心情にぴったりくるのであり、解放になるのだろう。ゲームコーナーが流行っている一つの原因だ。

しかし、ダークムードのゲームコーナーが増えるのを喜ぶべきか、悲しむべきか、よく判らないのだけれども、はっきり言えるのは、メカニカルなゲームが流行るのは悪い時代を象徴している。ということだ。だけど、面白くて楽しいものは多いほうがいい。

なんと皮肉な現象

実際、似非であれ代用品であれ、メカニックな社会に抑圧されたぼく達が、同じメカニカルなゲームマシンに救いを見出しているのは、何と皮肉な現象でありましょうか。

もしかすると、ぼくのようにゲームマシンにのめり込んでいる男達は、マザーコンプレックスから抜けられない者ばかりなのではないか。

ああ、今日も、〈胎内回帰〉の願望と、マシンとの対話の夢をのせて、ゲームマシンは廻転する。

（はがりてつ・作家）

本紙についてのご意見、ご希望を本紙編集部までお寄せ下さい。紙面充実のための参考にさせていただきます。
530 大阪市北区木幡町45番地　アドビル
ゲームマシン社

北海道で初の展示会

9月25日 札幌　リバーストン商会

ひしめきあう国産ゲーム機（手前はスーパースコープ）

リバーストン商会は、このほど北海道において初の商品展示会を開催した。同社は国産ゲームマシンを扱っていることで知られている。

九月二十五日、札幌市民会館において(有)リバーストン商会（石川和代社長　本社＝横浜市磯子区岡村町字笹堀一二七二笹堀コーポ内）の「商品展示説明会」が開催された。

会場は、札幌市民会館の第二、第五会議室で、展示会場と立食パーティ会場にあてられたが、合計三百平方メートル（約九十坪）という広さである。

当日、地元の北海道はもちろん、関西、関東方面からも多数来場者があり、午後には、会場を埋めつくすほどの盛況ぶり。会場に設けられた喫茶コーナーでは、商品説明に熱心に耳を傾ける来場者も多く、各所で歓談が行なわれた。

ところで、道内のゲーム場をふりかえってみると、設置されたゲームマシンが故障しても、修理するメカニックがいないなどの理由でそのまま放置する、ということがよくあり、泣き寝入りするオペレーターがほとんどであった。つまり、荒らすだけ荒しておいて去っていく業者の多かった北海道、そこへ関東業者が入って行くには、まずどうにもならぬ不信感に対処せねばならず、そのためには無責任だという印象を根底から払う必要があった。

そこで同社は、今年三月札幌営業所（札幌市中央区南二条西十丁目　ジムテルビル内　電話〇一一―二二一―三八四七）を開設。ゲームマシンなどの故障については、決して放置したりせず、メカニックにも十分な人材を投入し、従来の風潮を一掃した。

今回の商品展示説明会は、同社の健全かつ誠実な営業ぶりを、同地において定着させるものであり、メーカーや業者など広い層にわたって自社のPRを行なうもの。

国産ゲームマシンが揃う

石川和代社長は「好きな時に、好きな人と、好きなものを食べたい」という持論を持つ人物。行動範囲も広く、横浜、札幌、大阪と精力的に飛び回っている。持論を仕事にもあてはめて、しかも過去の教訓を生かして、なかなかのやりてと言えよう。反面、またその誠実な人柄が、営業面にも表われており、今後の展開が注目される。

なお当日展示された商品は、新聞紙上で大きな反響を呼んだレーダーエースのほか、次のとおりである。

スタンプベンダー
ニューダービー
バニーガール
メカニック
スーパースコープ
ショータイム
ワンダーボーイ
アンクル三〇〇
クーガー
ロータリーパルス
ハスラー
ジャンボール
パレスルーレット
クオーターホース
ホッピング
コイン巻機
パンチボード
千円札両替器
ナットベンダー

レーダーエースシステム（左）とスタンプベンダー

超音波利用の
レーダーエースシステム

(有)リバーストン商会の人気商品、レーダーエースシステムは、超音波を利用した小型高感度の多用途レーザーである。これはビルの綜合管理や立体的な火災報知器に応用できるほか、このシステムにCMマシンを連結すると、来客へのコマーシャル、メッセージもできるし、デパート、スーパー、銀行、商店などの入口や売場において、商品PR、インフォメーションなどにも利用できる。詳しい内容については同社営業部へ（本社電話＝〇四五―七五三―二二二五〇）

メダルゲーム場
マスコミに登場
NHK、週刊読売

ついにあのNHKがメダルゲーム場をテレビで放送した。つづいて、週刊読売が四ページも割いて記事を掲せた。マスコミにとっても、街のゲームコーナーは大きな話題となっているわけである。

NHKは九月十二日午前七時二十分から十五分間、カメラレポート「遊びの自動販売機」のタイトルで、レジャー評論家山本祥一朗氏がレポーターとなって放送。ペイアウトがないのになぜゲームコーナーに人が集まるか、の観点から、プレイヤーに質問したりして、非換金の遊びを考えるという趣向。但し、この放送は関東のみであったのが残念。

週刊読売十月五日号は、「〝必ずソンする〟ゲームになぜ人は熱中するか？――入門カジノふうギャンブルマシンとの付き合い方」と題するレポートふうの記事。

「いったい何が……これが彼らの〝美学〟」と、ゲーム場で遊んでいる若者の考えを探っている。とくに注目すべきなのは、週刊読売の場合、スロットマシン、ビンゴマシン、マスゲーム、マジックトッパーズ、ビデオゲームの項目にわけて、写真や図入りで遊び方を紹介している点。それぞれの面白さも突いていていい記事である。